

<p>一般社団法人青森県作業療法士会広報誌</p> <h1>Wa!!</h1> <p>—web版—</p>	<p>—第7号—</p> <p>一般社団法人</p> <p>青森県作業療法士会</p> <p>広報誌 Wa!!-web版-</p> <p>○発行日:</p> <p>平成23年8月26日</p>
---	--

新たな作業療法の展開

一般社団法人 青森県作業療法士会副会長 古川 功

前号の巻頭言において、作業療法士の人数が急激に増えたことをお伝えしましたが、このことにより、作業療法士の役割も広がりを持つことができました。

一つめは、緩和ケアという新たな考え方に基づく医療における作業療法士の関わりです。緩和ケアとは、悪性腫瘍や慢性疾患などの病気による痛みを抱えながらの生活に対して、心身をサポートしていく事を言います。

二つめは、365日リハビリテーション診療における作業療法士の関わりです。従来であれば、休みを含む限られた時間でしか関わりを持つことが出来なかったリハビリテーション診療が、リハビリスタッフの人数を増やすことにより、休みも含め、継続して訓練を行うことが可能となりました。特にリハビリテーション診療において、発症後の間もない時期に継続して治療できることは、回復過程に大きな影響を与えます。

このように、作業療法士数の増加が、関わる領域の拡大と医療サービス向上への対応を可能とし、作業療法内容を充実させています。

今回、この医療分野において展開される作業療法の緩和ケアと365日リハビリテーション診療における作業療法士の役割について紹介いたします。



緩和ケアにおける作業療法士の役割

緩和ケアと聞くと、「治療をあきらめた時に行う医療」という印象を持つかもしれませんが。しかし、緩和ケアとは、命を脅かす病気（がん・心臓の病気など）が見つかったときから必要に応じて行われます。その中で作業療法士は「病気に伴う身体と心の痛みなどのつらさを和らげること」を目的に、患者さん本人や家族が自分らしく過ごせるように支えることを目指します。そこで今回は、乳がんや婦人科がん治療の後遺症の一つである、リンパ浮腫（むくみ）治療に対する作業療法士の役割について説明させていただきます。

手足がむくむことは、外観上の変化もありますし、手の場合は箸を持って食事ができないこと、足の場合は歩きにくくなるなど、身体的・精神的・社会的な面でつらさを抱える可能性があります。リンパ浮腫の治療方法として、「スキンケア」、「用手的リンパドレナージ」、「圧迫療法」、「運動療法」を提供して浮腫改善に努めます。同時に、日常生活で不自由を感じている動作を確認して、現在の身体の状態からより楽に行なえる動作方法を検討して、一緒に訓練に取り組みます。

しかし、病気が進行するとリンパ浮腫の改善を目的とした治療が難しくなる場合があります。患者さんは症状悪化などの不安を募らせることがあります。このようなときは、スキンケアや、患者さんの身体をさするなど、安心感を与えられるような治療を提供します。また、家族に協力してもらい、患者さんと家族がお互いの信頼関係を深めながら、ともに過ごせるように配慮した治療を行います。



このように、患者さんの身体的・精神的・社会的な面に焦点を当て、ご本人と家族がその人らしさを保ちながら生活できるように支援していくことが、私たち作業療法士の役割です。

＜十和田市立中央病院 作業療法士 新谷亨＞

365 日リハビリテーションにおける 作業療法士の役割

脳血管疾患や大腿骨頸部骨折術後などの患者様が、急性期病棟や急性期病院での治療を経て、社会復帰するためのリハビリテーションを目的として回復期リハビリテーション病棟に移ります。この「回復期リハビリテーション病棟」とは、リハビリテーション専門の病棟です。リハビリテーションは一般的に「発症早期から休まずに集中的に行うことが効果的である」とされています。最近では日曜・祝日を含めた365日リハビリテーションを実施している病院も増えてきており、青森県内でも約5施設で行われています。

回復期リハビリテーション病棟における作業療法士の仕事の一例を挙げますと、病棟での早朝から訓練があります。まだしっかりと身体が醒めていない中で、着替えや、トイレに行く訓練を行います。そして、朝食後には洗面所で歯磨きをする訓練を行います。

このように作業療法士は食事や着替え、整容や排泄、入浴といった身の回りの動作訓練をタイムスケジュールに沿って行っており、患者様がこれらの能力を習慣化して獲得できるよう、効果的に促しています。また、これらの動作がより安全に、退院後の自宅環境でも行えるよう、住宅環境についてもアドバイスをしています。

患者様の生活スタイルは人それぞれ異なります。主婦の患者様には家事が行えるように、仕事をしている患者様にはその仕事内容が行えるように、といった1人1人の生活スタイルに合った訓練が必要になります。

以前は、日曜・祝日は休みとしていた、作業療法の訓練ですが、365日行うことによって、継続的に行われています。患者様や御家族からは、「途切れることなく訓練を行える」と好評価を得ています。

私たち作業療法士は、「日常生活のスペシャリスト」として、患者様一人一人の早期の社会復帰に向けて365日支援しています。

＜財団法人シルバーリハビリテーション協会

メディカルコート八戸西病院 作業療法士 葛西恭恵＞

片手でやってみよう！

お風呂で背中を洗う時、私たちは両手でタオルの両端を持ち、交互に引っ張りながら洗っています。しかし、怪我や病気で片手が使えない場合、背中を洗うのが難しくなります。そんな時は、タオルを工夫して、その使い方を練習すれば簡単に一人で洗えるようにすることができます。

今回は、市販されている片手でも使用可能な洗体タオルを利用して一人で簡単に背中を洗う方法を紹介します。



〈準備する物〉

市販のループ付タオル
(100円均一にて購入)



〈使用方法〉

①タオル面が背中に接するよう、片腕を通す。



②反対側は運動できる方の手で持つ。



③洗う際は運動できる方の手で上下・左右へ引っ張り、背中を洗う。



※長さ調整は紐を結び足すことで可能。

一般社団法人

青森県作業療法士会

事務局

〒036-8564 弘前市本町 66-1

TEL & FAX : 0172-39-5991

ホームページ: <http://www.aomoriot.org/>

一次号の予告

在宅療養に関わる
作業療法士について

平成24年2月発行予定

※都合により掲載内容が変わることがあります。

一般社団法人青森県作業療法士会は、命を大切にする心を育む県民運動に協賛しています。